



(仙台)

宮城・市川橋遺跡

いちかわばし

- 1 所在地 宮城県多賀城市市川字鴻ノ池、浮島字高平
- 2 調査期間 一 第二六次調査 一九九九年(平11)四月～二〇〇〇年二月、二 第二七次調査 二〇〇〇年四月～二〇〇一年三月

- 3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 千葉孝弥・鈴木孝行・武田健市・高橋圭藏・菊池 豊・相澤正信ほか

- 5 遺跡の種類 地方都市跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代・平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西側から南面一帯にかけて広がる遺跡である。標高二・三mの自然堤防上に立地しており、奈良・平安時代の遺構・遺物が広い範囲に分布している。

特に、八世紀後葉頃、多賀城の南正面に南北大路、それと交差する東西大路が建設され、城外の整備が始まったことが窺われる。以後、それらを基準とした方格地割が段階的に施工され、九世紀には都市的空間が形成されるに至ったと考えられる。

一 第二六次調査

南北・東西大路の交差点地区(A区南地区)、その北側における南北大路とその周辺地区(A区北地区)、大路交差点の南東地区(C区)の三カ所を対象として調査を実施した。今回はA区について報告する。南地区では近代以降の河川による削平が著しく、交差点の東半分は破壊されていたが、両大路の路面と側溝を検出することができた。この地区では、九世紀から一〇世紀にかけて、南北大路の位置が大きく東側に移動していることを確認した。両大路とも一〇世紀後葉頃には廃絶している状況が見られた。木簡(1)(2)は、南北大路の古い段階の西側溝から出土した。北地区では南北大路を約八〇mにわたって平面的に調査し、路面や側溝に五時期の変遷を確認した。また、大路を横断する河川の底面から全長一二m以上、幅約七mの橋跡を発見した。なお、この他に古代における最も新しい河川堆積土から、一〇世紀後葉頃の多量の土器や、黒漆塗壺・横刀・人面墨書土器・卜骨などとともに木簡一点(解説中)が出土している。

二 第二七次調査

第二六次調査地区及び南北大路の西側地区(A区西地区)、大路交

A区北地区では南北大路側溝に四時期の変遷があり、路幅が側溝心々で一七mから二三mに変化していることを確認した。(1)(2)は三

番目の時期の南北大路東側溝から、(3)は最古の時期の南北大路東側溝から出土した。一方、南地区では九世紀後半頃の水害の痕跡を確認した。(4)は南北大路西側溝から、(5)～(7)は南北大路を覆う洪水の堆積層から出土した。

また、東西大路から約四〇m北側において、東西方向の区画溝を発見した。ほぼ同位置で四時期の変遷があり、二番目に古いB期の埋土より木簡(8)が出土した。

D区については、今回その南端部を調査の対象とした。ほとんどの部分が古墳時代から近代に至る河川の流路となっている。そのうち、九世紀から一〇世紀にかけての堆積土から木簡(9)(10)が出土した。

8 木簡の釈文・内容

一 第二六次調査

A区南北大路西侧沟

- | | | | |
|-----|--|--------------------------|-----|
| (1) | ・「 <input type="checkbox"/> 野郷戸主物部 <input type="checkbox"/> 速 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 」 | $170 \times 14 \times 7$ | 051 |
| | ・「延暦十年九月四日」 | | |
| (2) | 「 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 」 | $109 \times 17 \times 5$ | 033 |

二 第二七次調査

A区南北大路東側溝

- (1) ・火長人長 [] 者上
[式拾口カ]
債仮入石 [田部カ] []
(328) × 33 × 9 019
- (2) ・磐城団解 申進上兵士事 合 [] 人 [] 刑部 =
- ＝子立 [] 『道』文部竹万呂
- ・ [口口] [七] [] =
- ＝ [] 657 × 32 × 7 011
- (3) [>] [] 伊具郡小川里公廨 [] (142) × 25 × 2 039
(削り残り)
- A区南北大路西側溝
- (4) ・ [] 謹解 申進上 春
米事 合 [] []
- ・ [] 合更替 [] []
- (142) × (49) × 20 065

A区洪水堆積層

(5) 〔 〕 麻綿五袴綿二要米二升

・ 〔 〕 卷 子集

(150)×14×5 059

(6) ・ ×年五月卅日舍人家宿買物

・ 〔 〕 卷奉

(126)×16×9 081

(7) 〔 〕 人〔麻カ〕

(74)×(21)×2 065

A区東西区画溝

(8) ・ 「千葉郷私馬矢五斗

・ 「延暦十一年四月五日」〔私カ〕

(104)×17×2 019

D区河川跡

(9) 〔 〕 伊少毅一石

149×25×5 033

(10) 解 申進人〔 〕

(103)×(28)×4 081

なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

多賀城市教育委員会『多賀城市文化財調査報告書第五九集 市川

橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報二―』(二〇〇〇年)

同『多賀城市文化財調査報告書第六四集 市川橋遺跡―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報三―』(二〇〇一年)

(千葉孝弥・鈴木孝行)



二(9)



二(3)



二(8)

